2021 年度目標達成状況報告書（医療保健学部）

＊自己評価は「S・A・B・C」の 4 段階で「S：十分満たしている、A：満たしている、B：概ね満たしている、C：満たしていない」

No.	評価基準		
1	年度目標	堅実・誠実な医療専門職養成	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科の国家試験合格率はいずれも 97～100%であり、臨床工学科も合格率 90%前後と全国平均を十分に超えており、医療専門職養成という学部ミッションを果たしている。
		改善策	留年・退学・国家試験不合格者のさらなる減少のため、入学前教育も含めた教育・指導体制の更なる強化に努める。
No.	評価基準		
2	年度目標	言語聴覚専攻を加えた 4 学科 3 専攻全体での多職種連携教育・研究のさらなる促進。学内（デザイン・八王子各学部/教養学環/アントレプレナー専攻）での学際的研究促進	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	以前より AI/IoT などに関する学部間の医工連携研究は進行中であり、言語聴覚学専攻もメディア学部などとの共同研究について学部間の意見交換を行っている。一方で学部内の多職種連携教育については、職種毎の養成規則に準拠するカリキュラム上の制約・実習スペースの不足などの課題を克服する方策について現在検討中である。
		改善策	学科・専攻をこえた教員間の学際的意識の共有を図るとともに、実習実験機材やスペースの弾力的共通運用についての検討と促進を図る。
No.	評価基準		
3	年度目標	COVID-19 に対する機動的対応（安全・教学務）	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	コロナ禍におけるクラスター発生もなく、感染状況やワクチン接種等に関する教職員・実習施設間での迅速かつ密接な情報共有下に臨床・臨地実習を含めた対面式学修を、安全に実施することができた。
		改善策	教職員ならびに実習施設間の更なる連携促進とその支援

			体制のさらなる拡充を促進する。
No.	評価基準		
4	年度目標	年度目標 1.～3.の実績に基づくこれまで以上の入学志願者獲得	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	C
		理由	A 日程を中心とした志願者減少の背景には、年内入試志願者の増加とともに、医療系競合校の増加や職種自体の知名度不足など学科・専攻ごとに複数の要因が存在する。
		改善策	「理想的な教育と研究を行うための理想的な環境整備」を理念とする本学は、一部の新設医療系大学に比しても、良質で良識ある教育理念に基づく教育インフラを有している。良好な国家試験合格率やハイレベルの実習病院などとともに志願者にアピールすべき点は多々存在する。職種自体の認識度と魅力度をアピールすることが必要な領域も存在するので、広報戦略のさらなる検討を進めたい。

【年度目標達成状況総括】

コロナ禍において、安全に対面式講義ならびに学外実習を完遂し、良好な国家試験合格率を達成したことは、医療従事者養成という本学部が学生ならびに社会に対する責務を十分に果たし得たものであって、学生諸君の努力と教職員一同の尽力によるものと考える。

医療専門職毎の「養成規則」により、教育水準の標準化・均てん化・高度化が公的に要請されている医療系学部では、多職種連携教育・学際的教育・養成施設独自の教育プログラム策定などに難儀するのが、医学科を含めた医療系教育の現状である。加えて蒲田キャンパスでは、研究・実習スペース不足というハンディキャップが存在するが、卒前学部教育における多職種連携教育を可能なところから開始するとともに、すでに実施しているデザイン学部やコンピュータサイエンス学部など他学部との連携を進めることで、研究と地域連携の促進を進めていきたい。

A 日程を中心とした志願者数減少に対しては、多面的な要因分析と広報戦略の検討とともに、本学部自身がアピールできる教育・研究・地域貢献の実績向上につとめたい。そのためにも、各学科・専攻・専門領域内での「蛸壺」的な固執から離脱し、さらなる意識改革の重要性について教員間で共有したい。

【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）

国家試験の合格率は目標に対し十分に達成している。また、コロナ禍における対面学修や臨地実習については、安全に実施されており、こちらも十分に達成している。入学志願者の獲得について、医療系競合校の増加など複数の要因が考えられるが、本学の特長をどのようにアピールしていくのか今後も検討してほしい。